

#### 第4問

(1) 下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、設問ごとに最も適当と思われるものを選び、答案紙の（ ）の中に記号で解答すること。

1. 材料1,820,000円の購入に際して、購入代価の5%を材料副費として予定配賦している。材料副費の実際発生額は99,000円であったので、予定配賦額との差額を材料副費差異勘定に振り替える。

- |        |           |          |
|--------|-----------|----------|
| ア. 材料  | イ. 材料副費差異 | ウ. 材料副費  |
| エ. 仕掛品 | オ. 買掛金    | カ. 製造間接費 |

2. 賃金の消費額を計上する。直接工の作業時間報告書によれば、製造指図書番号の記入された作業は840時間、記入されていない作業は120時間であった。当工場において適用される直接工の予定賃率は、1時間当たり1,200円である。また、間接工については、前月賃金未払高110,000円、当月賃金支払高360,000円、当月賃金未払高125,000円であった。

- |          |         |          |
|----------|---------|----------|
| ア. 賃金・給料 | イ. 現金   | ウ. 製造間接費 |
| エ. 仕掛品   | オ. 賃率差異 | カ. 製品    |

3. 当工場の製造部門には加工部と組立部がある。製造間接費は部門別に予定配賦率を適用して各製造指図書に配賦する。配賦基準は機械運転時間である。予定配賦率は加工部が1,500円、組立部が2,200円であり、実際機械運転時間は加工部が2,800時間、組立部が1,600時間である。

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| ア. 賃金・給料 | イ. 製造間接費 | ウ. 予算差異  |
| エ. 仕掛品   | オ. 製品    | カ. 操業度差異 |